

## 山田哲二博士の略歴

yamada@ysasoft.com

---

大阪大学工学部から1965年に学士号、1967年に修士号を取得、フルブライト留学生として1967年に渡米、コロラド州立大学から“密度成層のある大気境界層の数値モデルと風洞実験”の論文で1971年に博士号を取得。1972年から1976年までニュージャージー州のプリンストン大学の研究員、そこでメラ教授と共同で、“Mellor and Yamadaの乱流クロージャーモデル”の開発を行う。このモデルは1000以上の論文に引用され、現在、米国を始め、ヨーロッパ、日本、台湾、メキシコ、カナダその他の国々で大気及び海洋のモデルに広く採用されている。

1976年から1981年までイリノイ州のアルゴンヌ国立研究所に勤務、複雑地形上の大気の流れを予測するモデルHOTMACと大気中の浮遊物質の輸送・拡散を予測するモデルRAPTADの開発を始める。1981年から1990年10月まで米国ニューメキシコ州のロスアラモス国立研究所でメソスケール気象モデルのチームリーダーとして3次元大気予測数値モデルの開発、改良、応用、観測値との検証に従事し、現在までに60以上の論文、レポートを発表。日本気象学会から1984年度学会賞を受賞。また1990年には出身校のコロラド州立大学から卒業生に対して贈られる最高の栄誉“Distinguished Service Award”を受賞。1988年には台湾ナショナルサイエンスカウンセルと中国ナショナルアカデミーオブサイエンスから招待され大気乱流境界層の講義をする。米国内、国際会議でのキーノートスピーカー、インバイテッドスピーカー、チャーマン、米国酸性雨モデルプロジェクトのレビュー委員、米国SCENESプロジェクトの気象委員、米国エネルギー省アスコットプロジェクトのモデルグループリーダーを歴任。また米国厚生省主催のリスクアセスメントの公聴会に気象の専門家として招待を受ける。

民間技術移転第一号として、3次元大気乱流拡散モデルHOTMAC/RAPTADの独占販売権をロスアラモス国立研究所から取得。その商品化とユーザーサポートのため、米国法人Yamada Science and Art Corporation (YSA)を1989年に設立、大気乱流拡散の研究、YSAの事業活動に専念。日本、東南アジアでの活動の拠点として1999年8月、東京に有限会社ワイエスエージャパンを設立。

米国気象学会委員会「大気質に関する気象」の委員長（2001-2004）に任命された。

---